

# 第1回印西市部活動地域移行推進協議会 議事録

日時：令和6年5月20日（月）

13：30～15：28

場所：市役所41会議室

## 《出席委員》 敬称略

青木 和浩 磯 昌稔 吉野 高明 宇佐美美奈 渡辺 敏雄  
荻原 健一 田口 光浩 川嶋 将行 三門 宜典 飯島 正義

## 《出席事務局職員》

印西市教育委員会指導課 課長 石川 真樹子  
印西市教育委員会指導課 副参事 深澤 淳一  
印西市教育委員会指導課 指導主事 山崎 智貴  
印西市教育委員会指導課 指導主事 伊東 洋樹

## 《傍聴者》

なし

## 《次第》

- 1 委員の委嘱
- 2 教育長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 会長・副会長の選出
- 5 報告事項
  - (1) 昨年度までの印西市部活動地域移行の取組について（P4～P5）
  - (2) 部活動地域移行リーフレットvol.1～vol.4（P10～P14）
- 6 協議事項
  - (1) 令和7年度モデル実証事業について（P6）  
令和5年度部活動実態調査（P8～9）
  - (2) 令和6年度9月補正予算の要求について（P7）
- 7 その他

## 【議事要旨】

開会

(司会)

ただいまより令和6年度第1回印西市部活動地域移行推進協議会を開会いたします。

議事に入る前に申し上げます。当協議会は、印西市市民参加条例第11条4項の規定に基づき、会議公開に伴う傍聴席の開設と、傍聴席の設置と、会議録作成のため録音機材を設置して録音させていただきます。現在、傍聴人はおりません。

### 1 委員の委嘱

(司会)

新しく入られた委員に委嘱状を委嘱させていただき、教育長からご挨拶申し上げます。

<教育長・指導課長より委嘱状の委嘱>

どうぞよろしく申し上げます。

### 2 教育長挨拶

(司会)

次第2、教育長よりご挨拶申し上げます。

(教育長)

本日は、委員の皆様にはお忙しい中、印西市中学校部活動地域移行推進協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

印西市でも昨年度この協議会を設置し、部活動地域移行の在り方について協議していただきました。市の実態に合わせ、県のスケジュール通りでなく、丁寧に課題を洗い出し、中学生に不利益がないようにということをポイントに置き、市独自のスケジュールで地域移行していく準備をしております。この地域移行という課題は非常に難しい側面が多々ありますので簡単には進みませんが、近隣には地域移行のモデル事業を実施している自治体も出てきています。他市町の情報も得ながら準備していき、印西市でも、令和8年度中の本格的な地域移行を目指し、令和7年度に2種目の競技の休日の部活動を停止し、10クラブの地域クラブとしてモデル事業を実施したいと担当から聞いております。昨年度の協議会では方向性についてご助言をいただき、進捗状況を保護者や児童生徒に周知する方法についてご意見をいただきましたが、今年度より、予算や業務委託など具体的にどのような形で地域クラブを運営していくのかという話題が中心になってきます。今まで丁寧に議論を交わしていただきましたが、次年度になると急激に印西市の地域移行も進んでいきます。事務局も課題を抱えながら準備しておりますので、それぞれの立場でご活躍されている皆様のご意見をいただきたいと考えております。よろしくお願いたします。

### 3 自己紹介

<委員の自己紹介>

<事務局の紹介>

### 4 会長・副会長の選出

(司会)

次第4、部活動地域移行推進協議会の会長、副会長の選出でございますが、当協議会設置要綱第6条2項の規定により、委員の互選により定めることとなっております。いかがいたしましょうか。

<各委員より事務局に一任>

一任という声をいただきましたので、事務局からは会長を青木委員に、副会長を荻原委員にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

<会長・副会長の承認>

会長より一言ご挨拶をお願いいたします。

<会長挨拶>

ありがとうございました。

### 5 報告事項

(司会)

次第5、事務局より報告事項を説明させていただきます。

(事務局)

<昨年度までの印西市の部活動地域移行の取組について>

<部活動地域移行リーフレットについて>

※“子どもたちに不利益のないように”の補足説明

部活動が学校活動から切り離されると、今まで当たり前のように行われていた休日の部活動がなくなり、中学生がスポーツや文化芸術に触れる機会を失うことになってしまいます。子どもたちにできるだけ不利益が生じないように、中学生が活動できる受け皿を設置し、新しい形でスポーツ・文化芸術に触れられる場面をつくっていく予定で準備しております。

(司会)

事務局の報告事項にご質問、ご発言のある委員はいらっしゃいますか。

(委員)

この地域クラブを設置する場所はどうするのですか。

(事務局)

令和8年度以降、休日の部活動を停止して地域クラブ化を進め本格的に地域移行をしていきます。部活動での利用がなくなる市内小中学校のグラウンド、体育館、武道場などの施設

を地域クラブの活動場所として考えています。

(司会)

報告事項をここまでにさせていただきます。

## 6 協議事項

(司会)

次第6、協議事項に入らせていただきますが、当協議会設置要綱第7条1項の規定により、議長は会長が務めることになっております。ここからの協議事項については会長に進行していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

これから私が議事進行して参ります。まず議事に入る前に、私はいくつかの他自治体の協議会にも参加し会長や副会長を拝命しており、千葉県だけではなく都内のある区にも参加しています。そういう意味でも千葉県だけではなくて、東京都の情報もかなり早めにキャッチできるようになりました。

様々な自治体に進捗状況を聞きますと、やはり答えがないというのが率直に感じているところです。そして、生徒数や学校数などそれぞれの自治体の実態に合ったものを考えていけないと感じております。中学校長会での考え方や、現場で子どもたちの指導をしている先生方の肌感覚というのが非常に大切だということが、様々な会議に参加させていただき感じたことです。現場の考え方もありますが、様々な立場の委員の皆様の様々な視点で、この協議会を運営していくことが大切だと思いますので、忌憚ない意見を、よろしくお願いいたします。

事務局の報告事項からもありましたように、この部活動地域移行という変革は非常に難しい問題であるということは先ほど伝えた通りです。また、千葉県内でも市町村によって「かなり異なる取組」というのが実情です。近隣の自治体の状況も気になるところですが、重要なのは、印西市の実態をつかみ印西市の子どもたちの状況を分析し、印西市の地域移行の形を考えていくことが非常に重要だと思います。一方で、この地域移行という話題は部活動の転換期ということもあり、委員の方々も中学校時代、部活動に青春を捧げてきた方も多いため、思いますので、「部活動地域移行って何だろう」と思ってしまう部分はあるかと思いますが、これからの時代は、地域で子どもたちを育てていくという社会変革の中で、印西市の子どもたちに不利益がないように受け皿を設定し、教員は本業である質の高い授業を提供できるように、印西市の枠組みをつくりあげていくことが大切だと思っております。

では、協議事項1、令和7年度のモデル実証事業について、事務局からお願いします。

(事務局)

令和7年度モデル実証事業について、資料の6ページをご覧ください。昨年度の協議会の中で、印西市独自のスケジュールで令和8年度中に部活動地域移行できるようにという方針

の下、協議会で議論していただきました。当初は、教員や生徒に差が生じないように、一斉にすべての部活動を停止し、受け皿である地域クラブを設定し地域移行していこうと考えておりましたが、予算的にも非常に大きな新規事業になりますので、モデル事業の実証、分析、考察が必要ではないかのご意見をいただきました。

モデル実証事業を実施するにあたり、他市町が行っている平日部活動を延長した従来型の部活動地域移行ではなく、休日部活動を廃止し子どもたちが活動する受け皿である地域クラブを設置する本来の在り方で地域移行を目指し、その前段階としてのモデル事業を予定しています。モデル事業で選定した種目については、休日の部活動を停止します。継続して部活動に取り組む生徒とモデル事業の地域クラブに所属する生徒に差が生じないよう謝金や保険料は市が補助する予定で準備しています。モデル事業の種目の指導者は兼職兼業の教職員を含み、業務委託予定の実施主体から報酬を受けます。地域移行について実証・分析・考察できるような種目を選定します。

協議会でご助言いただいた、“子どもたちに不利益のないように”“失敗は許されない”ということを念頭に置き、8～9ページに記載している部活動実態調査のデータをもとに5つの種目を想定しました。1つ目は全中学校に設定のある陸上競技です。2つ目は現実的に部員の減少で合同チームが余儀なくされている野球。残りは市内2校に設定されている競技人口の少ない種目である柔道、硬式テニス、男子バレーボールです。

このモデル実証事業の種目（案）と昨年度取り組んできた協議会での進捗状況を臨時中学校長会で説明し、ご意見をいただきました。校長会の要望として、①本格移行する前段階のうちたくさん課題が洗い出すことができる競技人口の多い種目。資料には失敗しても良いのでは書いてありますが、校長先生方が地域移行の失敗を願っているものではありませんので補足させていただきます。きっと2校だけに設定されている種目は失敗しないだろうからモデルの検証にはならないという意見です。②男子と女子、室内とグラウンド、集団と個人のように対称的な種目であること。③多くの中学校がモデル事業に関われる種目であること。これら3つの要望が出ました。

校長会のご意見も含めて、事務局としてモデル事業の種目を野球と女子バレーボールに選定いたしました。1つ目の野球については、市内全9校中8校に設定されている種目ですが、部員が揃って単独チームで大会に出場できているのは数校しかありません。地域移行の議論のスタートであった持続可能な部活動運営という点でもモデルとしてふさわしいと考えました。2つ目の女子バレーボールについては、野球（男子・グラウンド）に対称的な点で洗い出しました。女子の室内種目の中で、競技人口の多い種目ということからふさわしいと考えました。この2つの種目でモデル実証事業を行ってよろしいか伺います。

（会長）

ただいま事務局からモデル事業の種目の提案がありました。印西市として様々な分析をしている中で、中学校長会からの要望も含めてこれらの種目を示しています。若干補足をしま

すと、おそらく事務局で提案していた柔道や硬式テニス、男子バレーボールは設置校が少ないのでモデルとしては比較的容易に運営できると想定されます。その一方で、中学校長会から指摘のあった小さなモデル事業を成功させても、本格的移行になった場合、汎用性があるのかという部分で否定的に捉えている部分もあるのではないかと感じます。

今年度初めての協議会ですので、野球と女子バレーボールの2種目での実証の方向性や善し悪しも含めて、委員の一人一人からご意見いただきたいと思います。中学校長会の話もありましたので、そのあたりの部分も含めてお願いします。

(委員)

次年度9月からとのことで詳細は決まっていないと思いますが、どのくらいの数のクラブ数を想定しているのでしょうか。中学校単位ではなく中学校関係なくクラブを設定するのでしょうか。大会の主催団体はクラブの参加を認めるのでしょうか。

(委員)

昨年度からこの会議に参加させていただいて、実証事業をやった方が良いだろうと決まり、中学校長会の意見も含めて事務局がいろいろ考えて選出した2つということであれば賛成です。実際に、地域クラブで指導していけば必ず様々な課題が出てくるでしょう。

(会長)

いきなり部活動地域移行の各論の話で難しいとは思いますが、保護者代表として素朴に思ったことを発言していただければと思います。

(委員)

私が部活動から離れて20年近く経っているので、現在の現状がわからず難しい課題であります。子どもたちにはやりたいことをやらせてあげたいという気持ちはあります。

(委員)

モデル事業の実施は事務局の提案どおりで良いと思いますが、中学校の教員の中にはどのくらいの割合で指導したい人と指導したくない人がいるのでしょうか。

(事務局)

印西市では令和4年度10月に、印西市内の中学校の教員向けアンケートを行っています。7割の教員が「休日は休みたい」「部活動指導をしたくない」という回答でした。教員の本音の部分が読み取れました。部活動地域移行の1つの理由は働き方改革の部分もありますので、そういう視点でも地域移行が必要だと思います。一方で、兼職兼業で土日の部活動を指導していきたいと回答した教員がおよそ3割です。この教員の気持ちやモチベーションを上げる場面を設定するのをもまた地域移行の意義になります。

国の方針として、令和8年度以降休日の部活動はなくなる方向で動いています。地域クラブを設置しなければ、指導したい3割の教員と部活動に取り組みたい子どもたちの受け皿がなくなってしまいます。さきほどある委員から保護者代表として子どもたちにやりたいことをやらせてあげたいという意見をいただきました。この協議会や市で休日の部活動に替わる

受け皿の設定をしていくことが部活動地域移行の始まりです。

3割の教職員だけでは運営できない部分もありますので、スポーツ協会やスポーツ少年団の指導者にも働きかけ、連携し協力していただこうと考えています。学校体育の枠組みから社会体育の枠組みの一部として、中学生を含む多くの人に関わって地域スポーツや地域文化芸術活動の環境を整えていく仕組みを考えていくのが部活動地域移行という課題になります。

市が設定する地域クラブは全国大会を目指して勝利至上主義で競技力を高めていくというより、休日に好きな種目に取り組んで体を動かしたい、楽器を演奏したいという中学生の習い事のイメージでの設置を考えています。競技力を高めて上位の大会に出場したいと考える生徒は既存のクラブやプロチームの下部組織に所属していく流れになるかと思われます。事務局としても部活動地域移行の将来を見据えた形でモデル実証事業からスタートしていこうと考えています。

(委員)

3割の教職員というデータがありましたが、30～40歳の教員は、地域クラブの指導者をやらないと思います。部活動の顧問は義務感があるので担当していますが、兼職兼業の地域クラブの指導者となれば、学校の中核として働いている30～40歳の層は家庭や子育てに専念するのではないかと思います。

(委員)

私はラグビー専門部なのですが、スクールに入会してくれる小中学生の人数がすごく増えています。お父さんたちの中にも一緒にクラブの運営に関わり、取り組んでくれる人が増加しています。方法によっては、30～40歳の層の保護者が子どもと一緒にその種目に興味を持って取り組んでくれる可能性もあります。質問なのですが、大会へは地域クラブだろうが合同部活動だろうが出場できるのでしょうか。

(事務局)

県の保健体育課に確認し、市が設置した地域クラブは無条件で小中体連主催大会に参加できると確認がとれています。今後も小中体連や協会・連盟などに働きかけを依頼しております。学校単位、部活動単位の大会参加になると、印西市の実態では、種目に取り組む機会を奪われてしまう中学生が出てきてしまいます。市内の中学生が平等に様々な種目に挑戦できる環境を整えるためには、地域クラブでの大会参加が必要だと考えています。

(委員)

モデル実施予定の野球は、リトルリーグやシニアリーグの硬式野球という選択肢など既存の受け皿も多いので、地域クラブに登録して活動する人は減ってしまうかもしれません。

バレーボールは中学生のクラブチームがないので地域クラブに登録する人はいるかもしれませんが。野球に取り組んでいる子どもの数が減ったのではなく、外部の野球クラブに所属していて学校の野球部に所属している生徒が減っています。

(委員)

自分も小・中学校の時代に野球部でした。野球部の生徒が減ることは寂しいです。中学校として大会に出場するのか、クラブとして出場するのかは、市としてクラブでの大会参加を想定しているということは理解しました。

(委員)

事務局の説明の中で印西市内の陸上男子と女子を合わせると300人を超えている競技人口の大きさは、印西市の特徴だと感じました。今後の課題になると思います。モデル事業として選出した野球と女子バレーボールについては、ぜひ成功してほしいと思います。人材確保だけでなく活動場所の確保は大きな課題ですので、休日の部活動を停止した中学校の施設を優先的に使えるのであれば、今まで部活動として稼働していた場所をそのまま使えるようにという想定で考えられているので大丈夫だと思います。スポーツ振興課の方でも、学校開放や市内の施設を貸出ししていますが、どの施設も市民から人気であり、その部分に地域移行に関わる中学生が特別に入り込むのは現実的に難しいと思っていました。

(委員)

指導者が定まらないのは中学校3年間くらいで、高校・大学は競技や種目、指導者などを選ぶことができます。小中体連としては、生涯スポーツとしてとらえるのか、競技力向上としてとらえるのか、どんな形の地域クラブでも受け入れてくれるのですか。

(事務局)

地域クラブでも大会参加が可能です。いくつかの協会や連盟で学校単位でなければ許さなかった専門部があるようですが、県の担当者会議でも課題として上がり、県教委からも要請もあり基本的にクラブでの参加を許可する方向性で動いています。

(委員)

私はモデル事業に陸上が良いと思いました。印西市の場合、選手の数も多いが指導者の数も多い印象を受けています。また、個人種目なので地域移行が易しいと考えました。どちらにしても、地域移行の設置者だけではなく、大会主催者である小中体連や競技の専門部などにもこの地域移行の仕組みに歩み寄ってもらわないといけません。

(委員)

部活動から地域クラブ設置するにあたっては、子どもたちの不利益にならないようにという観点から考えました。現状の部活動の数から地域クラブ数が減るのがほとんどのパターンだと思います。クラブ数が減るということはやはり試合に出る機会も増えるのではないかと思います。特に設置クラブ数が減少するのが剣道です。剣道が男女合わせて12部活動に対して3つのクラブになるということですか。

(事務局)

たしかに現在12部活動ですが、男女一緒に活動している6校を3チームにするのが人数的に適正数と考えます。

(委員)

今回の実証事業の中で、必要クラブ数の設定が重要な観点になると考えます。今の部活動数を現状維持または多くする分には影響はないと思いますが、地域クラブとしてチーム数を縮小するモデルも良いのではないかと思います。2種目とも団体種目なので個人種目という観点でも剣道をモデル実証事業として行うことが良いと思いました。

(事務局)

不利益にならないという文言ですが、印西市が目指している形は部活動の据え置きではなく、学校体育から社会体育として地域で扱っていくことを前提で進んでいます。当然保護者の送迎や指導者の報酬等少なからず家庭として負担すべきところは当然出てきます。なくなってしまう休日の部活動の代替としての受け皿である地域クラブを設定していくということを基準に見ていかないと、不利益に感じてしまうことが出てまいります。地域クラブ活動は部活動とまったく違う取り組みとして生徒も保護者も学校も教職員もとらえていかないと誤解が生じてまいります。部活動の概念から離れスポーツや文化芸術に触れあう機会を設定しているということを前提に考えていかなければならないことを追加しておきます。

(会長)

その他いかがでしょうか。

(委員)

私立に通っている生徒もいるとは思いますが、私立の生徒さんもこの地域クラブに登録できるのですか。

(会長)

私立は部活動地域移行が義務ではありません。私立で競技や種目に特化する生徒募集のような形で出てくると、それは公立中学校とはまったく違う扱いになります。この地域移行とは競技力向上のためではありません。つまり、健康的にスポーツや文化芸術に取り組むための受け皿というのが前提になります。競技力向上を求めるなら既存のクラブを選択して所属する形になることが考えられます。保護者が混乱してしまうのは、地域移行で専門の指導者が指導したら当然競技力が向上するだろうという誤解はあると思います。生涯スポーツ・文化芸術としての取り組みだということを念頭に置いてもらえるように丁寧に説明する必要があります。各論の部分も話題になっておりますが、事務局が提案した流れで実証していくことについて、ご一任いただきたいと思います。

<各委員承認>

難しい課題が多々あると思いますが、事務局で準備を進めていただければと思います。少し時間が長くなりましたが、協議事項2、令和6年度9月補正予算の要求について、事務局お願いします。

(事務局)

資料7ページをご覧ください。部活動から地域クラブに代わると、指導者謝金や活動場所、練習用具などへの費用が考えられます。印西市でも予算を組み、この事業を進めていこうと

考えております。令和7年度9月からのモデル実証事業、令和8年度9月からの本格的な地域移行ともに行政の予算要求は1年前から始まっています。予算要求に向けて準備をしているところであります。

野球が地域クラブ4クラブ、女子バレーボールが地域クラブ6クラブの合計10クラブを運営していく中で、どのような費用が発生するのか検証することも実証事業になります。はじめは初期投資として市の持ち出しがありますが、最終的には受益者負担で地域クラブを自走できるように考えております。また、近隣市町のモデルでも完全受益者負担の方針で実施している地域も出てきています。その市では受益者負担を一律2千円にしています。月4回の地域クラブの活動に対して月謝で支払いますが、1回につき5百円という謝金額の設定は、生徒や保護者が過度な期待をしない程度の額として考えているようです。休日の時間、けががないように活動を見守り、部活動顧問より専門的に指導してもらうことができる家庭に負担感のない金額設定であると情報提供していただきました。

いくつかの地域移行を請け負う業者からも情報提供していただき、実際に2千円で地域クラブを自走していくのは難しいので、3千円～4千円の間で想定していかないと、指導者確保の点で厳しいという情報もございます。今年度、近隣市でもおよそ10クラブのモデル実証を行います。担当者に進捗状況を聞きながら、印西市でもモデル実証事業を準備していきます。

モデル実証事業を行う上で、印西市でも業者への業務委託を考えています。事務局として委託した部分を7ページの表にまとめました。

<資料7ページの表を確認>

令和7年度までは県や国の実証事業委託費があるため、もしモデル事業の中で、初期投資で大きな費用がかかったとしても、国や県から委託費を申請し補助される形になっております。初期投資がかかっても、次年度以降受益者負担で自走できるようであればそのような方法でのモデル事業の実施も含め検討していただきたく思います。

(会長)

モデル事業の仕様や予算の部分で何かご助言や違う視点があれば、委員の方々にご意見をいただきたいと思っております。仕様書の部分は、行政部局の委員の方々から細かいアドバイスがあればお願いします。

(委員)

クラブの定員は3年生も含める人数か、それとも1・2年生の人数なのか、新入生が入ってくるのも5月くらいになると思っております。

(事務局)

選手の登録やチームの代替えなどは稼働してみないとわからないので検証が必要な部分だと考えます。クラブの定員をどの段階での人数に設定するかはこれから検討しなければならないところです。実際にクラブが稼働する中で、設置クラブ数も検討することが出てくると

は思います。

(会長)

この辺りは行政のつくりだと思うので、予算要求の規模と実働の規模がどのようにリンクさせるのか、行政の担当課で検討していただいた方が良いと思います。

(委員)

教育委員会内にも財政について詳しい人はいますので相談して進めるのが良いと思います。あとは、予算を要求する説明ができる仕様書をつくらないと、予算要求は通らないでしょう。

(会長)

他市の仕様書もぜひ参考にさせてもらおうと良いと思います。

(委員)

国として県として市としてやらなければならない事業ということを説明できるように資料の準備をしてください。

(会長)

印西市では、外部委託モデルと学校主体モデルの2種類あるうちの外部委託のモデルを進めることははっきりしています。民間企業も多くの業者が動いていると思いますので、直接説明を聞いてもらうのも良いと思います。大学生も地域移行に興味を持っている層はいます。既に業者に登録していて学校に派遣されている学生もいます。東京都は、千葉県とは課題が違います。謝金や運営費のお金には困っていないのですが、活動場所を設定するのに苦慮しています。

(委員)

資料にあるユニフォームなどの消耗品とは何ですか。

(事務局)

地域クラブでの大会参加を想定していますので、今まで使用していた学校の部活動のユニフォーム等は使えません。地域クラブに合わせたユニフォームが必要になります。

(委員)

中学校の部活動のユニフォームは学校で買うのですか。

(委員)

個人で管理する部活動もありますし、学校で管理する部活動もあります。

(事務局)

バスケットボールで例えると、バスケットパンツは生徒が自前で管理し、ユニフォームはチームで管理しているケースが多いです。ただ地域クラブができるのであれば、それぞれの地域クラブでユニフォームを新調する必要があります。

(委員)

家庭の負担を増やさないという視点だと市で準備することになると思います。

(事務局)

郡市民大会の市代表の選手団のようなイメージです。物理的に難しいですが大会のときにだけユニフォームを貸与される形で市が保管する方法も考えられます。

(委員)

ユニフォームも何年かに一回は更新してかなくてはいけないので、ランニングコストをどうするのかも検討しておきましょう。

(委員)

最初に市がユニフォームを用意してあげれば、古くても着ることはできるので市がユニフォームを用意してあげれば家庭としては助かります。それが負担軽減になります。

(会長)

ご意見いただいたものも、外部に委託していく準備と今後の費用の予算要求に向けての準備を進めてもらうということで、事務局にお戻しします。

## 7 その他

(司会)

次第7その他、事務局から連絡がございます。

(事務局)

来週、天台スポーツセンターで県教委主催の地域移行担当者会議があります。今年度の県の施策と他市町の進捗状況を確認できますので、第2回協議会の時にお知らせいたします。

閉会

(司会)

第1回印西市部活動地域移行推進協議会を閉じます。どうもありがとうございました。

令和6年度第1回印西市部活動地域移行推進協議会会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和6年6月14日

委員 磯 昌稔

委員 田口 光弘